

家族の相互作用と公正さの発達

91P099 長谷川明弘

問題

近年成立した家族心理学や道徳性心理学にもとづいて研究をおこなう。

本研究では家族心理学で主流になりつつあるシステムズ・アプローチによって検討していく。また道徳性心理学ではDamon, W.の認知的発達理論に基づく公正概念を取り扱う。

ところで、日本において家族は戦前のような大家族形態から戦後になってのその崩壊、近年では急速な核家族化や女性の社会進出、それに伴うと考えられる出生率の低下によってきょうだい数も減少傾向にある。そのような急激な家族の変化が個人にも何らかの影響を及ぼすものと考えられる。

目的

本研究では幼児における公正概念の発達にどのような家族の相互作用が影響を及ぼしているかの検討を目的とする。

被験者

4歳から6歳の保育園児76名とその保護者

方法

保育園を通じて質問紙調査表を保護者に依頼してもらい、保護者が記入後質問紙調査表を回収してコンピュータ処理をする。

Damon, W.が研究で用いた図版を使用し、それを幼児に見せて、面接法によって幼児の反応を記してデータを収集する。

そのデータをスコアリング・マニュアルに従って公正概念の発達段階を決定する。

質問紙と面接のデータを分散分析とクロス集計、判別分析によって解析をおこなう。

結果と考察

解析の結果、公正概念に影響を与える家族の相互作用は次の5つが示唆された。

- 1) 「祖父母」が「あなたたち（夫婦）」に相談を持ちかけてくること
- 2) 「子ども」が「きょうだい」を助けていること
- 3) 「子ども」が「同世代の子ども（友人）」と遊ぶ（相互作用する）こと
- 4) 夫が妻の家事以外の手伝いをする事
- 5) 母と子どもとが話をすること

しかし、システムズ・アプローチのとらえ方では、それぞれの相互作用は家族システムが機能している中の一つのサブ・システムの相互作用に過ぎないと考えられる。そして、システムズ・アプローチではこれらの一部の相互作用のみが取り上げられて変化すると、家族システム全体の相互作用の形態や質が変化するとらえている。そして家族システムは個々のシステムが安定する方向へ変化しようとする。

最後に家族システムはホメオスタシスを維持するために内外の相互作用によって常に変化をしていることを忘れてはならない。

研究の動機

高齢化社会がくるといわれているのを新聞やテレビなどのマスコミが時々報道をしているのをそれとなく気にしていました。わたしは、父方の祖父母と同居をしていました（父方の祖父母、父母、弟、わたしの6人家族）。小さいころから父方や母方のおじいちゃんとおばあちゃんに可愛がられて（？）育ったため、そのような報道からこれから先の日本はどうなるのか考えてみました。そこで、父母のことも踏まえて高齢者と同居をしていくのも一つの可能性だと思いました。そこで心理学の立場から何か有効な示唆が得られたら説得力があると思い「同居をずるとこんなに良いことが生じる」ことを示すために研究をしました。

今では、同居は良いかもしれないけれど、さらに行政の制度が整って行くのも良いと思います。

家族の相互作用と公正さの発達 保護者の皆さんへのお知らせ

私は大学生活4年間の総仕上げとして卒業研究をするにあたり「家族関係と子どもの思いやりの発達との関連」を取り上げました。そして、5月に質問紙調査表をみなさんにお願ひし、7月から9月にかけて保育園のほうへお邪魔をしてお子さんに面接を実施しました。この度、研究が終了しましたので結果の報告をします。

今回の研究ではみなさんの家庭の中の「家族の相互作用」を、そして面接では「思いやり」のなかでも「公正さ」について調べました。次に公正さについて少し詳しく述べていきます。

以前の心理学ではどうしたら攻撃行動が起こるのか？それはどのような性格、どのような家庭環境……といった研究が中心で社会的に望ましくない行為に対して盛んに研究が行われていました。しかし、次第にそのような研究はやや衰退していき、それよりも逆にどうしたら社会的に望ましい行動が生ずるのかという研究が近年盛んになってきました。そのなかで「思いやり」が取り上げられました。しかし、「思いやり」といってもいろいろあります。いろいろな心理学者がさまざまな考えに基づいて研究が進められています。今回は子どもにも面接をしてデータをとりました。面接のときにお子さんに2つのお話を聞かせました。その中の1つを次に載せます。面接のとき、紙芝居のようなものを見せながらお子さんが少しでもお話を理解できるようにしました。

お話し1 ※ () 内の名前はお子さんが女の子の場合

ここにいるみんなは同じクラスのおともだちです。あるとてもお天気の良い日に、みんなは先生に頼んで近くの公園へピクニックに連れて行ってもらいました。お弁当を食べた後、そこで自由に絵を描くことになりました。あきおくん（あきこさん）は、一番たくさん3枚の絵を描きました。かずおくん（かずこさん）は遊んでさぼっていたので2枚でした。さとしくん（さとこさん）は、途中で頭が痛くなり、休憩したので一枚しか描きませんでした。たけしくん（はなこさん）は、2枚でしたが、いちばん上手に描いていました。そこへ、散歩に来ていたおじいさんが通りかかり、みんなの絵を見てとても気に入り、おじいさんはとても喜んで、絵のかわりにソフトクリームを8個くれました。

お話し1の男子用図版

お話をお子さんに聞かせたら次にソフトクリームの形をしたものを実際にお子さんに分けてもらいました。そして分けた理由をお子さんに聞きました。分け方はまちまちで自分の分のソフトクリームをもらっていくお子さんや、太陽やお山にあげるお子さん、頑張ったからこの子（登場人物）にたくさんあげるなど分け方には個性が出ていました。

その分けた理由を次の表にしたがってお子さんの公正さの発達段階を求めました。

公正概念の発達段階

段階	概 要
0-A	行動を起こしたいという欲求から選択。理由は正当化しようという意図はなく、ただ欲求を主張することのみ（例：それを使いたいから得たい）。
0-B	依然、欲求中心だが、外見的特徴や性等に基づいて理由づけするようになる（例：女の子だからいちばんたくさん欲しい）。目的は変わりやすく、自分に有利にする傾向がある。
1-A	厳密な平等性の概念からなる（例：みんな同じだけもらうべき）。平等はケンカや葛藤を避けるものとして考えられる。一方的で柔軟性に欠ける。
1-B	行動の互惠的概念からなる。人は善・悪に関してお返しを受けるべきだと考える。メリットや功績の概念が現れるが、まだ一方的で柔軟性に欠ける。
2-A	さまざまな人が存在しているが、人間的価値は等しいということが理解されている。ただ、選択理由は主張（競争）を避け、量的に妥協しようとする（例：彼がいちばん多く、彼女は少し）。
2-B	互惠、平等、公平の真の意味を考える。さまざまな人の主張や状況の特殊性を理解する。したがって、場面により判断理由は変わる。基本的にはだれもが当然、分け前をもらうべきだという考え方。

この公正さの発達段階を上昇させる一つの要因として今回はお子さんの家族の影響を考えました。
次にその影響が特に大きいものを示します。

- 1) 「祖父母」が「あなたたち(夫婦)」に相談を持ちかけてくること(父方母方関係なく)
- 2) 「子ども」が「きょうだい」を助けていること
- 3) 「子ども」が「同世代の子ども(友人)」と遊ぶ(相互作用する)こと
- 4) 夫が妻の家事以外の手伝いをする事
- 5) 母と子どもとが頻りに話をする事

しかし、家族の影響は上の5つのみではなくたくさんあります。これ以外の家族の影響もあると思います。ところで心理学では家族の中には「暗黙のルール」が存在しているといわれています。たとえば「食事のときに座る位置」がその一つです。食事のときの位置はいつの間にか自然に決まった家庭が多いと思います。その「暗黙のルール」を調べるために一つ実験をしてください。わざといつもと違う場所に「あなた」が座るのです。そうすると家族のだれかが「あなた」にいつもと違う場所に座っているのを元の場所に戻ってというはずですが。これと同じように「わざと家族内のルールを変える」のはとても難しいのです。だからこの結果を聞いて今日からこの5つの影響をわざと増やそうとすると不自然さが増してかえって逆効果になるかもしれません。

それでは思いやりは増えないのならこの研究は意味がないと思われるかもしれません。

最近の心理学ではこのようなことも分かっています。

「家族は安定した状態になるために家族内外の影響を受けて常に変化している。」これは例えば「あなた」が何かすると他のだれかが安定させようと努力をする。その努力の結果「あなた」がまた何らかの影響を受ける……と永久に家族内で影響を与えたり、与えられたりすることが続いていくのです。そして家族全体に意図的にではなく自然に何かが生じるのです。だから思いやりが増すために次のようにすることをおすすめします。

今回の研究の結果を心の片隅においておき、時々思い出して実行していただければいいのです。もちろん忘れてもかまいません。

そうするとお子さんの思いやりだけでなく、家庭がより円満に過ごすことができるかもしれません。みなさん本当にご協力ありがとうございました。

愛知学院大学文学部心理学科
長谷川明弘